

「歯学への思い」と Health Science and Health Care

浦 郷 篤 史 (鹿児島大学歯学部 名誉教授)

拝復

先般、貴君の大型封筒を拝受。開けて驚きです。感激です。そこで、単純な私はペンを握っていました。一般に開業医の方々にとっては、毎日の診療だけでも大変ですのに、貴君はその診療のほか、ADCNを介しての社会活動など多用極まる毎日でありましようのに、Health Science and Health Careを発刊されるとは。凡人にはとても出来ることではありません。編集、発行人となって出版事業を創始したい、という発想そのものに、凡人は到達し得ないと思います。歯学に対する貴君の思いの深さを語る今回の1巻1号であります。"歯学への思い"とは、苦しむ患者さんに対する思いやりの深さです。Dentistの一人として、貴君より少しだけ長く生きてきた者として、貴君のご発想に改めて感謝です。

なお、高江洲教授のご協力、ご教導は有難いことです。我が国の歯大教授のなかでも、特筆すべき立派なCharacterをお持ちの方と、私はかねがね尊敬致しておりました（専門領域が異なってい

ましたが、偶に学会場などでお会いする頻度が高い方でしたので、その都度挨拶を交わさせて頂いた程度でしたが、いまでもお会いしてお話を拝聴したい方です。)

その高江洲教授の"展望"、中村修一君の"H.P.の計画・実行・評価"、さらに瀧口課長の"エジソン"論など、貴誌の内容はさすが、と感じ入りました。凡人には期待できない大事業と思われませんが、今後さらなるご発展を大いに期待し、祈らせて頂きます。なお年寄りの身勝手な、つまらぬ世話ですが、貴誌が近い将来Science Citation Indexにも掲載されるほどの名誌に成熟されますよう!!

(なお、同上誌による本年夏のランキングの1位はNew England Journal of Medicine (Impact factor 24.834、第2位 The Lancet (同 17.948)、第3位 Annals of Internal Med. (同 11.210))

貴誌を手にした今日は、一日中よき日になることでしょう。ありがとうございました。くれぐれも御身で自愛のほどご専一に!!

平成14年10月2日 浦郷拝